



補足

前号の話は、ちょっと紙面が足りなくなっ
てしまったため、色々なところを削ったり、
結論だけとってつけたように添えてしまっ
たりしたので、どうも「もやもやサマーズ」状
態の人がいそうである。老婆心（老翁心）な
がら補足を。

*

まず、バスの券売機が壊れている場合はど
うするかというと、たいていバス停の側に、
ボール（コーヒーやアルコール類を立ち飲み
できる店、軽食も可）やタバッキ（日本の煙
草屋に相当する店で、簡単な日用品も売っ
ている）があって、そこで売っているの
である。ちなみに、私が子どもだった頃は、
日本でも同じような感じで、私の地元でも、
バス停の側にあった煙草屋さんが切符売
りを請け負っていたような記憶がある。そ
れらの店がなければ、乗ってから運転手
に交渉することになるが、タダで乗せて
くれる運転手もいれば、キッチリ料金を
要求する運転手もいて、なかなか面白
かった。

次にフニコラーレだが、登山電車などとい
うと大袈裟だが、例えばナポリは海岸沿
いの坂の町で、海岸沿いの平地と坂の上
を結ぶフニコラーレが4路線くらいある
のである。どの路線も4駅くらいの小
さな路線で、1～2両編成の斜めの
ケーブルカーが、町の人たちの生活の
足となっているのである。

*

券売機や自動改札が当たり前になる前は、
日本でも駅の窓口で行き先を言って切符
を買い、それを改札口の駅員さんに渡
してはさみを入れてもらったものだ。
定期券も駅員さんに見せて通り抜けた。
小学生の時から電車通

学をしていた私は、うっかり期限切れ
の定期を持っていて、駅員さんに見つ
かって叱られた経験もある。

券売機や自動改札になると、切符を
買う際のちょっとしたコミュニケーション
や、不正を見つけて叱られ、バツの
悪い思いをするといった経験がなくな
ってしまう。

日常の買い物の場面などでも同じだ
ろう。昔は店先で「合い挽き肉150
グラム下さい」などと頼んで、その場
で竹の皮にお肉を包んでもらったりし
ていたわけだが、今ではすでにパッ
クになって並んでおり、誰と会話す
ることなく、それをレジに持って行く
だけである。もちろん、レジの店員
さんと会話することだって、ほとん
どないに違いない。一言も発するこ
となく、「商行為」という人間の
一つの根本的なコミュニケーション
が出来てしまうというのも、何かし
ら不思議な感じがする…というか、
本当にそれでイイのだろうかとい
う感じがしなくもない。

*

確かに赤の他人と会話するのは
わずらわしい。余計な配慮すること
なく、スムーズに買い物ができたり、
交通機関が利用出来たりする方が
ずっとイイかもしれない。しかし、
昔はよかった…といったレベルの
話ではなく、その便利さの一方で、
着実に失われているものがあるに
違いない。

ちょっとした会話、ちょっとした
笑顔のもたらす暖かみ。もちろん、
一言が齟齬を呼び、険悪な雰
囲気になってしまう場合もあるだ
ろう。そんな当たり前の「人間らし
さ」を、イタリアの不便さの中で
感じたのである。